

津波避難施設

防災計画課 ☎214・3047

東部道路の東側の地区に津波避難施設の整備を進めています。津波避難施設には非常食や飲料水、毛布などを配備するほか、発電機や防災行政無線も設置します。

今年2月に第1号となる中野5丁目津波避難タワーが完成。近隣町内会で見学会が開催されたほか、津波避難訓練も行われています。3月には高砂中学校と岡田小学校にも、屋上への外階段が設置されました。平成28年度までに全部で13カ所の津波避難施設を整備する予定です。



◀足の不自由な方も、つえを持参して訓練に参加。なだらかなスロープは上りやすいと好評でした

▶非常持ち出し袋の中身や、津波避難施設の備蓄物品の説明も行いました



中野5丁目津波避難タワーで訓練を実施—中野白鳥町内会

5月23日と24日の両日、宮城野区中野5丁目に完成した津波避難タワーで、地域住民による津波避難訓練が行われました。



中野白鳥町内会の小湊会長

「地域には高台がありません。いざというときに、複数の避難施設が用意されているのは大変心強いことです」と話すのは、中野白鳥町内会の小湊國雄会長です。

訓練には2日間で合計172人が参加。津波避難タワーの使い方を確認したほか、施設に備えられている簡易トイレの組み立て方法等も確認しました。当日参加できなかった方へは、回覧板で訓練の様子を伝達し、家庭での備えに役立ててもらっています。

「震災で多くの住宅に浸水被害が発生したことで、防災への意識はより高まりました。津波避難訓練はいざというときにどう行動するのか、家族で話し合うきっかけになったと思います。今後も訓練を継続し、地域全体の防災力強化に努めていきたいです」と小湊会長は話します。

東部沿岸地域の復興—津波防災機能を高め、緑を再生します

震災による大津波で甚大な被害を受けた東部沿岸地域では、安全で災害に強いまちの構築に向けて、減災を意識した施設の整備や復旧、緑の再生などの取り組みが進められています。



平成19年6月撮影

震災前の海岸公園（蒲生地区）

宮城野区蒲生地区の海岸公園は、海岸防災林に隣接した場所にあり、野球場やテニスコートを利用する市民でにぎわいを見せていました



平成24年5月撮影

仮設焼却炉

震災後は仮設焼却炉を備えた震災廃棄物等の搬入場に。広大な敷地を利用して分別を徹底した結果、8割を超えるリサイクル率を達成しました

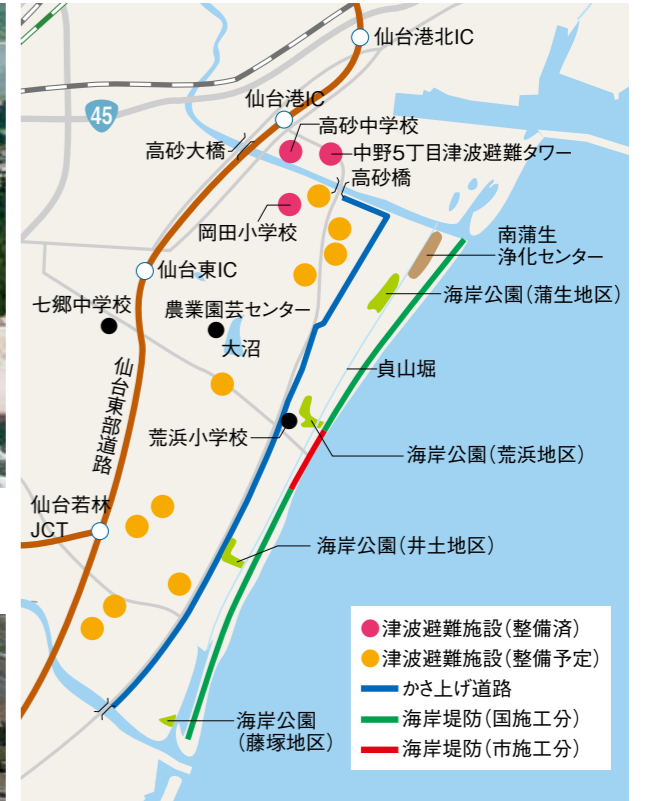


平成27年6月撮影

避難の丘 整備予定地

少年野球場 整備予定地

整地が進み、少年野球場の工事も始まりました。また海岸近くでは、林野庁による海岸防災林の復旧事業が進められています



海岸公園

建設局公園課 ☎214・8357
百年の杜推進課 ☎214・8389

宮城野区蒲生から若林区藤塚まで広がる海岸公園は、豊かな自然環境に恵まれ、市民のスポーツやレクリエーション施設としても活用されてきました。

震災の津波により、沿岸部の象徴だった松林や、ほぼ全ての施設が被災流失。その後、蒲生地区・荒浜地区・井土地区は震災廃棄物搬入場として活用されました。平成25年12月に震災廃棄物等の処理を終え、平成26年3月には原状

復旧が完了。本年度より海岸公園の復旧作業が本格化しています。蒲生地区の少年野球場、荒浜地区の多目的広場やパークゴルフ場は来年3月の完成を目指しています。利用者の安全確保のため、各地区には津波避難に備える「避難の丘」も整備し、蒲生・荒浜・藤塚地区は平成28年度末、井土地区は平成29年度末の完成に向け、工事が進められています。また、沿岸部の緑の再生に向けて、海岸防災林の復旧が進められているほか、来年3月には市民植樹も予定されています。

海岸堤防

農林土木課 ☎214・8264

海岸沿いには、震災以前より1メートル高い7・2メートルの堤防が設置されます。このうち、市が施工するのは深沼漁港部分の約830メートル(その他の区間は国による整備)。工事は9月に完了する予定です。



かさ上げ道路

南道路建設課 ☎214・8408

津波による被害を軽減するため、県道塩釜巨理線等を約6メートルかさ上げする工事を進めています。道路の盛り土には、津波堆積土砂やコンクリートがらを混合処理して活用。平成30年度の完成を予定しています。



若林区井土地区では盛り土がほぼ完了し、今後はのり面の緑化が行われます

南蒲生浄化センター

☎258・1095

市の下水の約7割を処理している南蒲生浄化センターは、津波で壊滅的な被害を受けましたが、急ピッチで工事が進み、本年度末に水処理施設の完成を予定しています。

新しい水処理施設は、震災時の津波の高さを元に設計し、防災機能を高めています。また年内には、水処理施設2系列のうち1系列で運転を始める予定です。



水処理の起点である最初沈殿池の状況。津波対策として、電気設備を上層階に設置



最終沈殿池棟の屋上に太陽光パネルを設置するほか、小水力発電も行うなど「創エネ」の取り組みも

この特集に関するお問い合わせは 震災復興室 ☎214・1266